

一日自治大学校(2/3鹿児島県開催)アンケート結果

《参加者数》 県職員，市町村職員等 約300名

《研修評価》

	一日自治大学校に対する評価(人)			
	非常に有意義であった	有意義であった	どちらともいえない	参考にならなかった
県職員	39	78	4	0
市町村職員	15	26	2	0
その他	1	3	1	0
合計	55	107	7	0
		95.9%		4.1%

《受講者アンケート》

- 県職員である私でさえも、マスコミ主導の情報のみで国の取組を評価していました。また、このような機会を設けていただければありがたいと思っております。
- 今まで、それぞれでしか見ていなかった歴代内閣の政策等のつながり・流れが、非常に理解できた。財政健全化については、自治体職員として、非常に危機感を感じる内容であった。
- 大石校長の講義は、過去から現在までの地方分権への取組について、具体例をあげて説明され、大変興味深く聴くことができた。又、川口教授の講義は、内容が非常に専門的なため難しかったが、丁寧な説明で、参考になった。
- 三位一体改革を「言葉」から「姿」として受け入れることができました。地方公共団体の厳しい財政状況に、どのように対応していくのか、しっかり両眼を見据えて頑張りたい。
- 事業課に属していることから、これまで行財政の一部しか理解していなかったが、行財政全般に係る仕組みが分かり良かったと思う。
- 大石校長の「誇りと希望のもてる職場づくり」という言葉が印象的でした。職場では、理念、夢や目標などを自由な発想で議論できるよう、環境整備に努力したいと考えています。川口教授の財政健全化についての説明は、健康診断の例えを交え、分かりやすかったです。
- 地方自治の、これまでの経緯も大切であるが、今後、地方分権、道州制、政権交代等を踏まえ、国の動向はどうなっていくのか、そのために、地方はどうすればよいのか、どういう備えがいるのかなど、将来をにらんだ話も聞いてみたかった。
- 今まで関わってきた業務にはない、国の方針、施策等を大きな視点で考えることができた。
- 大石校長の講義で、竹下内閣以降における地方分権の推進について、各内閣における具体的な取組などを分かりやすく説明いただき、これまでの流れを再認識した。川口教授の講義において、地方財政の現状と課題等を聞くにつけ、普段の業務では、大きな視点から、そのようなことを考えていなかったことを認識させられた。
- 大石校長の「公務員バッシングを乗り越え、若い人に公務員としての誇りを取り戻してほしい」等の御意見は、まさに、我々が最優先で取り組むべき課題であると感じました。
- 市町村においてはめったにない機会であり、特に国の現在の動向についての講義は大変有意義でした。次年度もこのような研修があれば有り難いです。